

2020 年度大学入試センター試験 解説〈倫理〉

第 1 問 青年期・現代社会分野

問 1 正解は④。

- A 「互いに結びついた一つの集まりとして捉えることにより、検証が可能」が入る。ここでは科学的な知識の体系が航行中の船になぞらえられ、いったん航海が始まれば、不具合が生じてもばらばらにすることができないとされている。
- B 「ホーリズム」が入る。ギリシア語の「ホロス=全体」に由来する語で、クワインが自身の立場を説明するときに「全体論」の意味で用いた。「パラダイム」はクーンの用語。

問 2 正解は④。

- ④ 図 1 により、日本で人間の仕事が AI に奪われると思うと答えた人は計 70.6%と、80%に満たない。また図 2 により、何も対応や準備をしていないと答えた人の割合は、日本は 51.2%で、アメリカの 22.8%の 2 倍を超えている。
- ① アメリカの就労者で、AI を使う側の立場で仕事や業務をするために対応や準備をすると答えた人の割合は、図 2 の 3 番目および 4 番目のグラフから、計 64.8%にのぼる。
- ② 日本の就労者で、これまで培ってきた知識やスキルで今とは別の仕事や業務をしようとして対応や準備をすると答えた人は、図 2 の 1 番目のグラフから、13.1%にすぎない。
- ③ アメリカの就労者で、今の仕事や業務を続けるために AI の知識やスキルを習得（等の対応や準備を）すると答えた人の割合は、図 2 の 4 番目のグラフから、46.7%にすぎない。

問 3 正解は④。

- ④ リバタリアニズムを代表するノージックは、格差の是正を哲学的に正当化できるとするロールズの正義論に反対し、累進課税制などの形で富裕者層の富を過度に徴税することを自由に対する侵害だと主張し、唯一正当化できる国家は、最低限のことだけを行う最小国家だと論じた。
- ① 「拡張国家」の表現を除けばロールズの主張となる。ロールズは、いかなる立場の者であれ合意できる正義の原理を探求し、そこには不遇な人々の生活を改善するための福祉を実施することが含まれているとして、「格差原理」を主張した。またこれを実現するためには財産権などの一定の自由については制約することが求められるとされる。ノージックは、こうした主張はあるべき国家の役割を超えた「拡張国家」だと批判した。

- ② 「最小国家」が誤り。最小国家では、不遇な人々の境遇を改善することはできない。
- ③ 「拡張国家」が誤り。拡張国家では個人の自由を侵害することになる。

問4 正解は③。

- ③ 資料文では、ケアする者が道徳的であろうとするのは、自分が苦しむ他者の現実と同じ状態であったかもしれないと考えることができるからであり、またそうした行為を通して自分の理想を高めることになるからだとされている。
- ① 他者からケアされることが大切だとは述べられていない。
- ② 苦しむ他者のニーズを満たすことで関係が破綻しても、それを行うのが責務であるとまでは述べられていない。
- ④ 他者に対する責務の念については、それを抱くべきだとも抱くべきでないとも述べられていない。

問5 正解は③。

- ③ 人間の個性は遺伝と環境の両方によって影響されると考えられている。
- ① 「遺伝のみに影響される」が誤り。遺伝が子に影響を与えることは間違いでないが、たとえば一卵性双生児のように100%同一の遺伝子をもつ子であっても、個性の違いがある。
- ② 「環境のみに影響される」が誤り。環境が子に影響を与えることは間違いでないが、遺伝による影響も大きい。髪の毛や肌の色などの身体的特徴のほか、空間認知能力なども遺伝の要素が大きいとされる。
- ④ 個人的特徴は遺伝と環境の両方に強く影響される。

問6 正解は①。

- ① かつては障害者や高齢者などを施設に隔離することが当然視されていたが、今日では、誰もが共生できる社会をつくるべきだというノーマライゼーションの考え方が広がっている。
- ② 「仕事と家庭生活との調和」はワーク・ライフ・バランスである。バリアフリーは障害者にとっての障害をなくしていくことをいう。
- ③ 「介護の社会化」についての説明である。
- ④ 男女共同参画社会についての説明である。

問7 正解は③。

- ア 正文。国民が主権者として意思決定できるためには、政府がもつ膨大な情報を知る権利を保障することが欠かせない。これを制度化するために、各自治体では情報公開条例が整備され、国レベルでも 1999 年に情報公開法が制定された。
- イ 誤文。デジタル化された情報ほどコピーが容易であり、知的財産権侵害への危険性は高くなる。
- ウ 誤文。個人情報保護法は、個人情報を取り扱う事業者にその適正な取り扱いを義務づけるものであり、デジタル・デバイド（情報の活用能力の格差）の是正を義務づけるものではない。

問8 正解は④。

- ④ 誤文。リサイクルではなく、フェアトレードについての記述である。
- ① 正文。人種や宗教、政治的意見などを理由に本国政府からの保護が受けられなくなって国外に逃れた者を難民という。こうした難民の人道上的危機に対応するために難民の保護を担っている国際機関が、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）である。
- ② 正文。マララ・ユスフザイ（1997-）は、パキスタン出身の人権活動家。パキスタンにおける武装勢力が女子校を破壊するなどの活動に及んでいることを批判したため、15歳のときに武装勢力から銃撃されるも、奇跡の回復を果たし、翌年には国連本部で女性の教育を受ける権利を訴える演説を行い、2014年に17歳でノーベル平和賞を受賞した。
- ③ 正文。途上国への支援は各国による政府開発援助（ODA）などの形でも行われている。日本が行っている JICA（国際協力機構）による青年海外協力隊の派遣もその一例である。

問9 正解は①。

- ① 社会が複雑化すると大人に求められる知識や技術が多くなり、それを習得するために必要な教育の期間が長くなり、結果、青年期は長期化する。
- ② 児童期が消失してしまったという事実はない。
- ③ 近代以降の社会では教育期間の長期化が進んでおり、実質的な成人の年齢は遅くなってきているといえる。
- ④ 大人として認められるための儀式・儀礼（イニシエーション）は次第に形骸化しているが、それは心理的・社会的な成熟に時間がかかるようになってきた結果でもあり、青年期は長期化している。

問 10 正解は②。

- ② Kの第三の発言に対応する記述である。
- ① Kは「人間はできる限り一人であるべき」とまでは言っていない。最後の発言にある通り、「支え合って一緒に生きていく」ことが重要だとも考えている。
- ③ Rは、助け合いの積み重ねの結果として濃密な関係が成立すると考えているのではなく、第三の発言にあるとおり、濃密な関係をつくっておくことによって助け合いが可能になると考えている。
- ④ ロボットと友達になれないというRの当初の考えが改められたとの記述はない。

第2問 源流思想分野

問 1 正解は①。

- ① アリストテレスは、あるべき行為の基準として、中庸（メソテース）を挙げた。これは両極端を避けた適切さを意味するもので、無謀と臆病の中庸としての勇気がその典型である。
- ② すべては原子の寄せ集めであると考えたエピクロスにとって、人間の死とは、魂がバラバラに霧消してしまうことを意味する。したがって、生きているときには死は存在せず、死んでしまったら何も考えることもできないため、どのみち死について恐れるのは愚かであるとされた。
- ③ イスラーム教では人はみな神の前で絶対的に平等であり、一般信徒から区別される聖職者は存在しない。
- ④ 荀子は礼によって利己的な本性を矯正すべきとする礼治主義の立場をとる。「法律による強制」を説くのは法家である。

問 2 正解は③。

- ③ プラトンの「洞窟の比喩」についての説明である。人は感覚で捉えた世界を本物の世界と思い込むものだが、プラトンによれば、それは、洞窟の中で影絵しか見たことのない囚人が影絵を本物と思い込むようなものとされる。
- ① プラトンによれば、アイデアの認識を確実にするのは、あくまで理性である。これをプラトンは二頭立ての馬車と御者の比喩で説明しており、二頭の馬がそれぞれ気概と欲望を指し、これを制御する御者が理性を指している。
- ② プラトンによれば、感覚を通してはけっして事物の真の姿を捉えることはできない。
- ④ プラトンは、統治者階級、防衛者階級、生産者階級の違いを自明のものとしているので、すべての人が哲学を学ぶことのできるわけではなく、統治する者とされる者との関係が消滅することもない。

問 3 13 正解は③。

- ③ あらゆる事象には固定不変の本体がないというのは、大乘經典の『般若経』で説かれ、後にナーガールジュナ（龍樹）によって空の思想として体系化された教えである。
- ① 「小乗仏教」の表現は、上座部仏教に対して大乘仏教がつけた蔑称であり、上座部仏教の自称ではない。
- ② 大乘仏教において尊ばれている菩薩は、出家・在家を問わず、衆生済度のため悟りを目指す修行者を指す。
- ④ 大乘仏教ではなく上座部仏教についての説明である。大乘仏教は中国を経て朝鮮・日本へと伝わったため、北伝仏教と呼ばれる。

問 4 14 正解は④。

- ④ 孟子は、力に基づく霸道政治を否定して仁義と天命に基づく王道政治を説いた。そして天命の有無は民衆による支持によって測られるとして、天命を失った君主への放伐を正当化した。
- ① 墨子は侵略戦争を否定する「非攻」を説いた。
- ② 道を重んじて無為自然の理想社会を説いたのは、墨子ではなく老子である。「自給自足の生活を送る小さな共同体」とは小国寡民のこと。
- ③ 孟子ではなく荘子についての記述である。

問 5 15 正解は②。

- ② 朱子の言葉「修身齐家治国平天下」についての説明となっている。
- ① 理が心の内にのみ存在とするのは、朱子学を批判した王陽明の立場である。
- ③ 「集諦」とは、ブッダの説いた四つの真理を意味する四諦の一つであり、無数の煩惱が苦しみの原因であるとする真理である。
- ④ ブッダは苦行によっては悟りに至れないとして、愛欲と苦行の中道の実践によって悟りに至ったとされる。

問 6 16 正解は③。

- ③ パウロは、神によって創造された最初の人間アダムが神の命令に背いたことを、万人に受け継がれた原罪であると説いた。
- ① イエスはファリサイ派に反対し、律法を遵守することのできない人々を導くことを自らの使命とし、そもそも万人が罪人であるとして悔い改めを求めた。
- ② 神の愛（アガペー）は無差別に無条件で万人に与えられている。イエスは人々に、この愛への応答として、神への愛と隣人愛の実践を求めた。
- ④ パウロは、イエスの十字架上の死によって人間の罪が贖われたと説いた。

問7 17 正解は⑤。

- A 「一生に一度はハッジを行うことが五行の一つ」が入る。メッカへの巡礼は五行の一つである。なお六信とは、アッラー・天使・教典・預言者・来世・天命である。
- B 「断食」が入る。なお五行は、信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼である。

問8 18 正解は②。

- ② 4行目により、断罪された者には希望がなく、1-3行目により、至福にある者には希望と信仰が存在しない（必要なくなっている）が、6行目により、現世にいる旅人には希望が存在するとされている。
- ①④ 至福にある者には希望が存在しない。
- ③④ 断罪された者には希望が存在しない。

問9 19 正解は②。

- ② 第2段落では旅における出会いの意義が指摘され、第3段落では、卑小さな存在でありながらも真理に近づきうる存在としての人間の姿が旅になぞらえられている。
- ① 第3段落末尾に照らし、「真理や救済に近づくことはできない」が誤り。
- ③ 第2段落末尾に照らし、出会いが独自の思想を阻害するという記述が誤り。また人生を旅に喩えることは、「人間の偉大さを強調する考え」を表現するためではなく、人間の卑小さを見据えるため。
- ④ 旅の意義は「人との出会いを避け」ることにはなく、日頃出会わない人と出会うことにある。

第3問 日本思想分野

問1 20 正解は②。

- ①② 空也についての説明。
- ③④ 鎌倉時代に活躍した一遍についての説明。

問2 21 正解は③。

- ③ 『風姿花伝』は能を大成した世阿弥の理論書である。
- ① 西行は平安時代の元名門武士で、出家して歌人となり、歌集『山家集』のなかで世の無常を歌った。
- ② 吉田兼好は随筆『徒然草』のなかで、世の無常を嘆くよりも、むしろ味わい深いものとして受け止める美意識を表現した。

- ④ 近代を代表する哲学者のひとり九鬼周造は、江戸時代以来の「いき」の美意識を、偶然に満ちた世界を生きる人々の朗らかな心性として分析している。

問3 22 正解は②。

- ② 『古事記』と『日本書紀』はいずれも奈良時代に編纂されたもので、そこには天皇の支配を正当化するという意図が背景にあった。
- ① 日本では伝統的に八百万の神々への信仰が行われきたが、それは教義も教祖も存在しない漠然としたものだった。これが多かれ少なかれ体系化されるのは、仏教や儒教などの外来宗教との出会いを通して、一部はそれを取り込む形で、また一部はそれとの差異を際立たせる形で、という経過をたどった。したがって「外来思想の影響を受けることなく」は正しくない。
- ③ 伊弉那岐命と伊弉那美命は「国産みの神」と呼ばれるが、天地をつくったわけではない。天地はこれらの神々よりも古くに、おのずから「なった」とされている。
- ④ 罪や悪は、(キリスト教のように)人間の心の中から出てくるものではなく、外部から付着するものと考えられた。

問4 23 正解は④。

- ④ 山鹿素行は儒学の原点に立ち返ることを説く古学の祖である。
- ① 山崎闇斎についての記述である。
- ② 山鹿素行は朱子学を批判する立場であり、そのため流罪になっている。
- ③ 後半の記述が朱子学者の山崎闇斎の説明となっている。

問5 24 正解は①。

- ア 鈴木正三の説明である。鈴木正三は徳川家に使える旗本の家柄であったが、出家して禅僧となった人物である。西川如見は江戸時代に活躍した天文学者。
- イ 二宮尊徳の説明である。分度と推譲によって天地や祖先の恩に徳をもって報いるべきだとする報徳思想を説いた。安藤昌益は万人直耕の世を理想とした医師で、石田梅岩は商人の営利活動を正当化した町人思想家。

問6 25 正解は①。

- ① 徳富蘇峰は自由民権運動にも影響を受けたキリスト者として出発し、平民主義を掲げるジャーナリストとして政府批判の論陣をはったが、日清戦争後には国家主義へと転じていった。
- ② 社会主義者・堺利彦についての説明。

- ③ 加藤弘之についての説明。
- ④ 森有礼についての説明。

問7 26 正解は④。

- A 「中江兆民」が入る。幸徳秋水の師であり、『三酔人経綸問答』の著者は中江兆民である。片山潜は幸徳秋水とともに日本の社会主義運動の黎明期を支えた一人。
- B 『『社会契約論』』が入る。中江兆民は「東洋のルソー」と呼ばれ、ルソーの『社会契約論』を初めて日本語に訳し、抄訳とはいえ『民約訳解』としてこれを日本に紹介した。『自由論』はミルの著作。
- C 「共和主義」が入る。公共の事柄(レス・プブリカ)に真摯に向き合える点に「市民(公民)の徳」があるとするのがアリストテレス以来の伝統であり、共通善を目指してよき共同体を建設しようとする立場を共和主義という。

問8 27 正解は③。

- ③ 1-2行目にある通り、茶事の極意はそれを一度きりのものと覚悟する点にある。そして8-10行目には、その事情は人生においても同様だとされている。
- ①② 「次の回」のことを考えて茶事を催すなら身の入った茶事にならない。
- ①④ 人生においても、「未来の目的」を考えるならば、瞬間を充実させることができない。

問9 28 正解は②。

- ② 最終段落にある通り、伝統といっても自明のものではなく、各時代の解釈などによって形成されてきたものだというのが本文の最大のポイントである。
- ①③ 伝統が「常に同じ内容を保っている」という記述が誤り。
- ④ 伝統を「無から捏造したもの」とし、そこに「恣意性と虚構性」しかないとするのは言いすぎであり、本文にそうした記述はない。

第4問 西洋近現代思想分野

問1 29 正解は①。

- ① ルネサンスの運動は、ギリシャ・ローマの時代のヨーロッパ古典文化の復興を目指そうとするものであり、当時賛美されていた「人間性」を回復させようとするものであったことから、ヒューマニズム(人文主義)とも言われる。
- ② ルターは人間の自由意志を正面から否定した。
- ③ カルヴァンはルターと並ぶ宗教改革の指導者であり、プロテスタンティズムを代表

する立場である。

- ④ ピューリタニズムとは、イギリスにおけるカルヴァン派のグループの立場であり、絶対王政を打倒する市民革命の担い手となった。

問2 30 正解は①。

- ① ロックは所有権を人間の生来の権利として擁護したが、ルソーは財産の私的所有こそが今日の不平等の起源であるとして、そうした状況を乗り越える社会契約の必要性を訴えた。
- ② ロックは神が君主に権利を与えたとする王権神授説を批判した。またルソーが財産の平等な分配を主張したという事実はない。
- ③ ホッブズは、「万人の万人に対する闘争」を終わらせるために社会契約が求められると論じた。またロックは万人を制圧できるような「絶対的な権力」には批判的だった。
- ④ ホッブズは王権神授説をとっていないし、君主制には肯定的な立場だったので、万人が君主に戦いを挑むことを求めてもいない。またロックは絶対君主制を理論的に正面から批判した。

問3 31 正解は②。

- ② スピノザは、いっさいが神の現れであるとする汎神論の立場から、神の現れとしての自然を「永遠の相のもとに」把握することに人間の喜びがあると論じた。
- ① デカルトが疑うことのできない確実なものとしたのは、自己の身体ではなく、自己の精神である。デカルトによれば、いま自分が疑っているという事実だけは疑うことはできず、疑う（思考する）自我＝精神の存在だけは絶対確実だとされる。
- ③ モンテーニュは、自分の知を過信することを戒め、「私は何を知っているか（ク・セ・ジュ）」をモットーとした。
- ④ パスカルは、「幾何学の精神」以外に、全体を直観する「繊細の精神」に固有の意義があると論じた。

問4 32 正解は②。

- A 「意志の自律」が入る。カントは、自身の善意志（内なる声）の命令に従って行為する点に、人間の道徳性の根拠を見出した。これを意志の自律という。「格率」は単に私的にのみ成り立つ実践規則である。
- B 「共同性」が入る。ヘーゲルは、カントの説いた自由があくまで主観的なものにすぎないとして、真の自由は、個人の内面を超えて社会共同体において実現しなければならないと考えた。

問5 33 正解は③。

- ③ ベンサムとは違い、ミルは、外的制裁ではなく内的制裁を重視した。
- ① ミルの師に当たるベンサムの主張。ベンサムは、最大多数の最大幸福を実現するためには、法によって人々を望ましい方向へと導く（法律的制裁）が必要だと考えた。
- ② マルクスの立場。
- ④ アダム・スミスの主張。

問6 34 正解は④。

- ア 誤文。ベーコンは経験論の祖。「問答法」を「帰納法」とすれば正文となる。
- イ 正文。経験論を徹底したヒュームは、経験によって捉えられない自我や精神を確固たる実体とする見方をしりぞけ、人間の心は「知覚の束」にすぎないと述べた。
- ウ 正文。コントは、それまでの学問が経験を越えた抽象概念から世界を説明しようとしたことを批判し、観察や実験によって確かめられる現象だけに着目する実証主義を提唱した。

問7 35 正解は③。

- ③ ニーチェは、既成の価値観が崩壊しつつある状況を「ニヒリズム」と呼び、そうした状況にあって、みずからの力への意志に忠実に新たな価値を創造する超人としての生き方を説いた。
- ① ニーチェはキリスト教の道徳を、弱者の自己正当化に根ざす奴隷道徳として批判した。
- ②④ ハイデガーの説明である。

問8 36 正解は②。

- ② 資料文の記述により、連帯とは個々人が互いに共感し合う関係であり、またその前提として、自分の業績を自分自身のもので他者から認めてもらう経験を通じ、他者から承認される業績を生み出したいという思いが育まれることが重要だとされていることがわかる。
- ① 連帯が「互いに譲歩し合う人間関係」という説明がおかしく、また自分の業績を集団の成果とし、集団の意志に従順であろうと感ずるということは、資料文とは正反対の主張である。
- ③ ①と同様である。自分の業績を他者の恩恵とし、他者が自分より優れていると感ずることは、資料文と正反対の主張である。
- ④ 自分の業績はあくまで自分自身の業績として評価されるべきだというのが資料文の

趣旨なので、自分の業績について「集団を代表するものとして」評価されても不十分であり、また自分の価値を自分で認められるようにすることは大切だが、「自分は他者より優れていると感じ」ることまでは求めている。

問9 37 正解は①。

- ① 最終段落では、身体的欲求と理性的要求の一方に偏ることなく、両者を正しく追求することが大切だとされている。
- ②③ 第2段落や第4段落にあるとおり、近代以降の西洋思想でも、身体的な欲求の充足を制限しようとする立場が一貫して支配的だったとは言えない。
- ②④ 最終段落では、身体的欲求と理性的要求の両者を正しく追求すべきだとされており、理性的な生き方だけを追求すべきだとは説かれていない。